



Title	スプリントの効果について
Author(s)	有馬, 太郎; Arima, Taro
Relation	国際講演・実習：顎関節症診断法の国際基準 = The Instruction on Research Diagnostic Criteria for Temporomandibular Disorders). 11月3日（祝・水）。北海道大学学術交流会館，札幌市。
Issue Date	2010-11-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/44446
Type	conference presentation
File Information	1. Effect of wearing occlusal splint.pdf





HOKKAIDO
UNIVERSITY

THE EFFECT OF WEARING
OCCLUSAL SPLINT
スプリントの効果について

GRADUATE SCHOOL OF DENTAL MEDICINE
大学院歯学研究科

TARO ARIMA
有馬太郎

3RD Nov., 2010

[▶ 会員専用ページへ](#)
[▶ ENGLISH](#)
[トップページ](#)
[国大協の概要](#)
[国大協の会員紹介](#)
[国大協の活動](#)
[国立大学法人等職員の採用試験に関するお知らせ](#)
[採用・公募情報](#)
[国立大学の入試について](#)
[What's New](#)
[ニュース&トピックスイベント](#)
[地域\(支部\)情報](#)
[リンク](#)
[研修・セミナーに関する活動](#)
[協会への窓口
\(お問い合わせ\)](#)


[リンク](#)


国立大学フェスタ2010


「国立大学フェスタ2010

」の実施について

全国86の国立大学は、質の高い教育の提供と優れた研究活動を通じ、我が国の知の創造や人材育成の拠点としてのナショナルセンター及び地域社会・経済・医療を支えるリージョナルセンターとして、我が国の経済社会や学術、文化芸術など多岐にわたりその発展に貢献しています。

国立大学協会では、こうした国立大学のさまざまな分野における優れた取組をもっと多くの方々に知っていただけるよう、「国立大学フェスタ2010 」を定め、各国立大学は10月及び11月の期間に、集中的に大学の施設の開放や教育研究活動の紹介などの活動を行っていくこととしました。

「国立大学フェスタ2010 」を通じ、国立大学の教育研究活動を広く社会に発信することで、国立大学がより社会に開かれた存在となるよう一層努力をしていきたいと考えています。

「国立大学フェスタ2010 」期間中に行われる予定の、86の国立大学と4の大学共同利用機関の活動(イベント等)については下記のとおりです。参加方法などの詳細については、それぞれの実施大学の問合せ先にお尋ね下さい。多くの方々国立大学のこれらの活動にご参加いただけるようご案内いたします。

●実施期間:平成22年10月1日～11月30日

国立大学フェスタ2010イベント一覧

全注  1.016KB	
地区別	活動内容別
北海道	(1) オープンキャンパス等  389KB
東北	(2) シンポジウム、セミナー等  501KB
関東甲信越	(3) 公開講座、市民講座等  490KB
東京	(4) サイエンスカフェ等  230KB
東海・北陸	(5) 演奏会等  172KB
近畿	(6) 大学祭等  225KB
中国・四国	(7) ホームカミングデー等  167KB
九州	(8) その他  123KB
大学共同利用機関	 171KB

大学名	種類	活動名	実施期間	実施場所	活動概要	参加要件等	問合せ先
北海道大学	②シンポジウム、セミナー等	教育GPセミナー 「CoSTEP これまでとこれから」	11/27	北海道大学総合博物館1階知の交流コーナー	講師 北大高等教育機能開発総合センター 科学技術コミュニケーション教育研究部(CoSTEP)部長 杉山 滋郎	特になし	北海道大学教育GP事務局 011-706-4704 http://museum-sv.museum.hokudai.ac.jp/project/s/edu-gp08/
北海道大学	②シンポジウム、セミナー等	5周年記念HUSCAP(ハスカップ)講演会	10/21 10:00~12:00	北海道大学学術交流会館小講堂	HUSCAP(北海道大学学術成果コレクション)とは、北大研究者による学術論文など約3万件以上をインターネットを介して無料公開するもので、誰でもいつでも北大の学術成果に接することができる電子書庫であり、北大の研究活動を世界に発信しています。 本年はHUSCAP公開の5周年にあたり、記念講演会を開催します。北大研究者がHUSCAPを通じた学術成果の公開事例をご紹介しますと共に、学外から情報倫理の専門家であり学術情報のオープン化を推進している明治大学A.A.アダムス先生をお招きして、学術成果を無料公開して社会に還元する意義についてご講演いただく。	ご所属とお名前を添え、 huscap@lib.hokudai.ac.jp宛に電子メールにてお申し込みください。 申込期限:10/13	北海道大学附属図書館学術システム課 huscap@lib.hokudai.ac.jp http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/huscap/HUSCAPmeeting.jsp
北海道大学	②シンポジウム、セミナー等	サステナビリティ・ウィーク2010	10/25~11/15 (一部イベントは、12月にも実施)	北海道大学札幌キャンパス及び函館キャンパス (一部イベントを近隣ビルのイベントスペース等でも実施)	持続可能な社会づくりに貢献するため、本学の教育・研究の成果を世界に向けて発信するとともに広く我が国社会に還元する場、海外の高等教育機関、研究機関等との交流を推進する場として、約2週間に渡り国際シンポジウムや市民向け講座、学生企画等を集中的に実施する。	ウェブサイト上で参加登録受付。会場に空きがある限り、聴講可。 ただし、一部の国際シンポジウムの使用言語は英語のみ。	サステナビリティ・ウィーク事務局(北海道大学国際本部国際連携課内)〒060-0808 北海道札幌市北区北8条西5丁目 電話:011-706-2093 FAX:011-706-2095 http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw/jp/
北海道大学	②シンポジウム、セミナー等	教育GPワークショップ 「フィンランドの教えない教育」	10/30、11/20	北海道大学総合博物館1階知の交流コーナー	講師 北大高等教育機能開発総合センター准教授 池田 文人	特になし	北海道大学教育GP事務局 011-706-4704 http://museum-sv.museum.hokudai.ac.jp/project/s/edu-gp08/
北海道大学	②シンポジウム、セミナー等	「国境フォーラム」in 対馬	11/12~14	長崎県対馬市交流センター	本フォーラムは、我が国の国境周辺に位置する北海道根室市、長崎県対馬市、沖縄県与那国町、東京都小笠原村の4首長を主体に国境に関する様々な問題等を話し合うことを目的に開催され、2010年は長崎県対馬市で開催する。今年度は、対馬が朝鮮半島への窓口であることに鑑み、境界研究や島嶼研究の国際的な学者たちによるラウンドテーブル、日本の境界地域にかかわる実務会議、学生たちによる対馬を舞台とした日韓意識調査、恒例となった関連自治体首長によるディスカッションなどが計画されている。また期間中、北大総合博物館で好評を博したグローバルCOEの「知られざる北の国境」「海疆ユーラシア」の移動展示をDVD上映とともに対馬市交流センターにて行う計画である。	「境界研究の拠点形成」のホームページ内の申込みフォームを利用願います。 http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/cgi/20101112wwwwail.html 締切り:11/1	北海道大学スラブ研究センターグローバルCOEプログラム 「境界研究の拠点形成」事務局 TEL:011-706-3314/4809 FAX 011-706-4952 http://www.borderstudies.jp/events/workshops/index.htm#101112
北海道大学	③公開講座、市民講座等	市民公開・農学特別講演会 平成22年度テーマ 「農学の連携」	11/26 13:30~16:50	北海道大学大学院農学研究院4階大講堂	この講演会は、明治31年(1898年)に発足した「札幌農林学会」が毎年開催してきた学術講演会を継承・発展させたもので、100年以上の歴史があります。平成9年からは「市民公開・農学特別講演会」と名称を改め、大学関係者だけでなく広く一般市民の方々に公開されるようになりました。	特になし	北海道大学農学事務局庶務担当 電話:011-706-2420




CONTENTS 内容

THE EFFECT OF WEARING OCCLUSAL SPLINT ON スプリントが

1. DISC PROBLEMS 関節円板の問題に与える影響
2. MUSCLE PROBLEMS 咀嚼筋の問題に与える影響
3. CONDYLE PROBLEMS 下顎頭の問題に与える影響
4. BRUXISM ブラキシズムに与える影響

平成 22 年 5 月 7 日

北海道大学
有馬 太郎 殿

社団法人 日本補綴歯科学会
理事長 佐々木啓一

診療ガイドラインパネル就任のお願い

拝啓

新緑の候、先生におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。
平素は社団法人 日本補綴歯科学会に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 22 年 4 月 16 日に開催された委員長会にて協議しました結果、先生には顎関節症分野の診療ガイドラインの改訂作業や新規ガイドラインの策定作業にご尽力頂くための診療ガイドラインパネルにご就任頂きたくお願い申し上げます。なお、本パネルの選考は診療ガイドライン委員会で行われた旨申し添えます。

つきましては、パネルご就任の諾否を別紙の“診療ガイドラインパネル就任承諾書”をご利用のうえ、平成 22 年 5 月 17 日（月）までに本学会事務局（メール：hotetsu-gakkai01@max.odn.ne.jp または FAX：03-5940-5630）までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

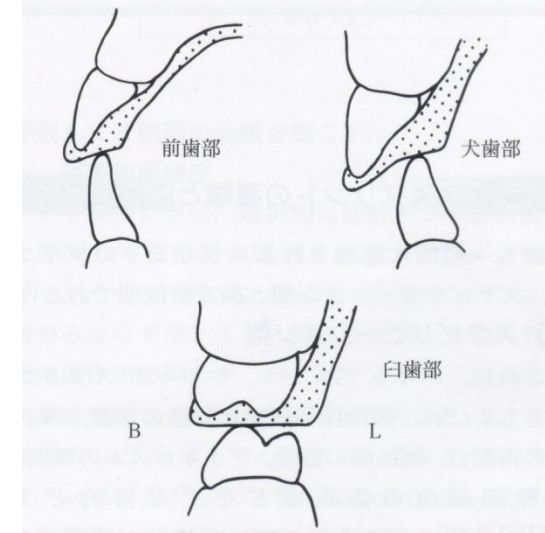
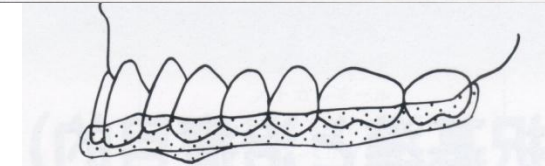
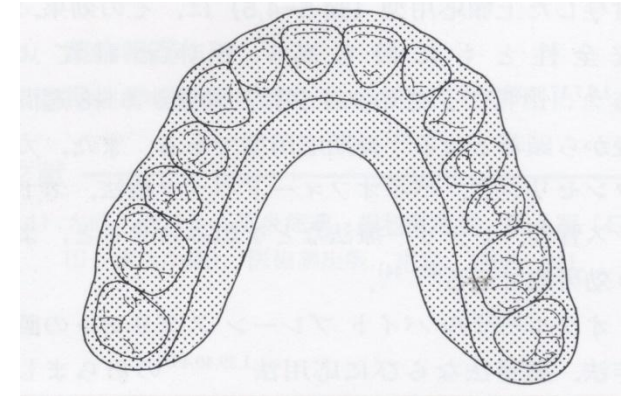
以上、御多忙の折、恐縮ですがよろしくようお願い申し上げます。

敬具

OCCLUSAL SPLINT スプリントとは

BASIC TREATMENT OPTIONS FOR TMD 顎関節症の基本治療

- **SPLINT THERAPY** スプリント療法
- **PHARMACOTHERAPY** 薬物療法
- **PHYSIOTHERAPY** 理学療法
- **BIOFEEDBACK TREATMENT** バイオフィードバック療法
- **OCCLUSAL ADJUSTMENT** 咬合治療
- **SURGICAL TREATMENT** 外科的治療法
- **ORIENTAL MEDICINE** 東洋医学的療法
- **OTHERS** その他の療法



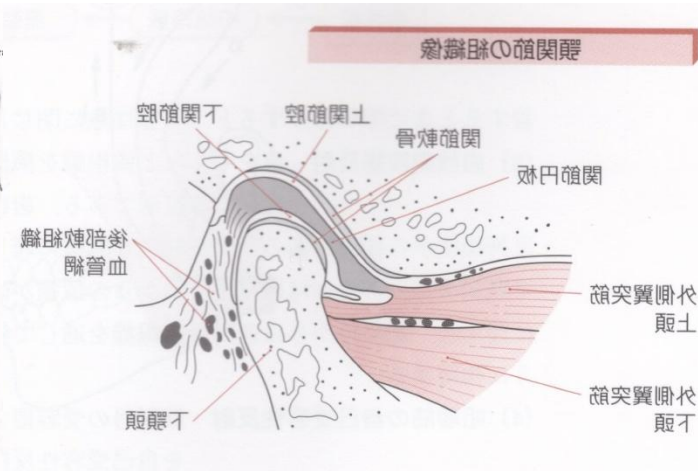
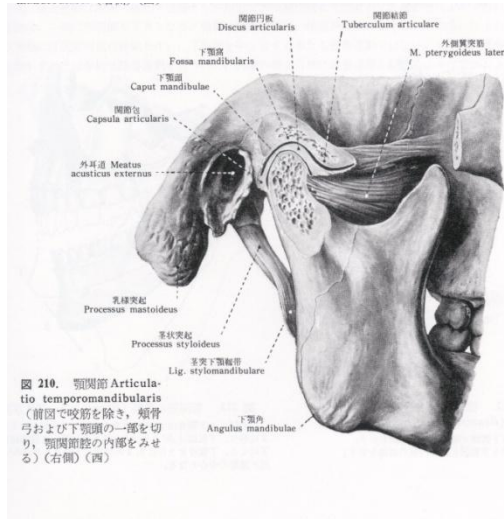
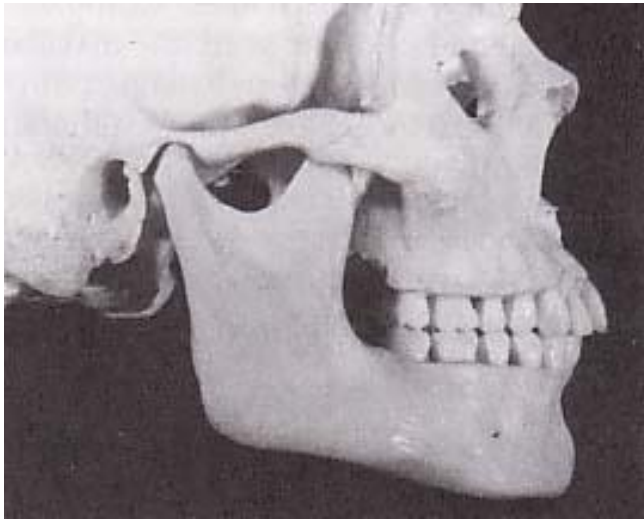
顎関節症入門 (森本 ほか有馬含む, 医歯薬出版 2001)



CONTENTS 内容

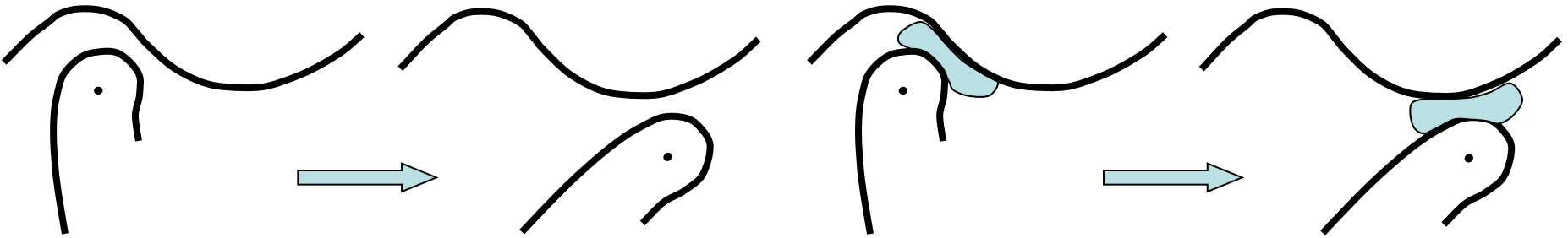
THE EFFECT OF WEARING OCCLUSAL SPLINT ON スプリントが

1. DISC PROBLEMS 関節円板の問題に与える影響
2. MUSCLE PROBLEMS 咀嚼筋の問題に与える影響
3. CONDYLE PROBLEMS 下顎頭の問題に与える影響
4. BRUXISM ブラキシズムに与える影響



Management of Temporomandibular Disorders and Occlusion (Okeson 1998)

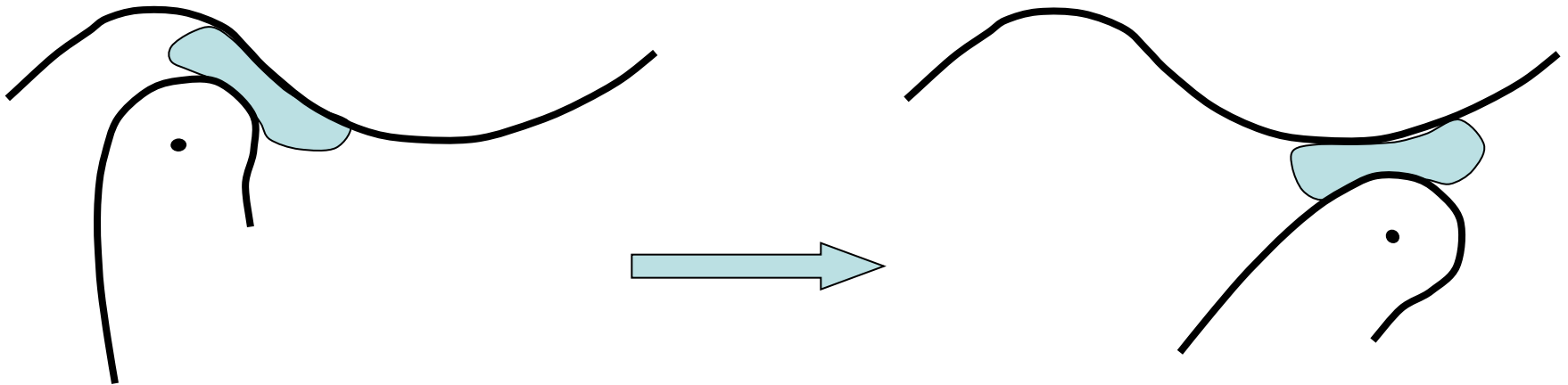
解剖学 第一巻 (森 ほか, 金原出版 1950) 補綴臨床に必要な顎口腔の基礎知識 (藍, 学建書院 2002)



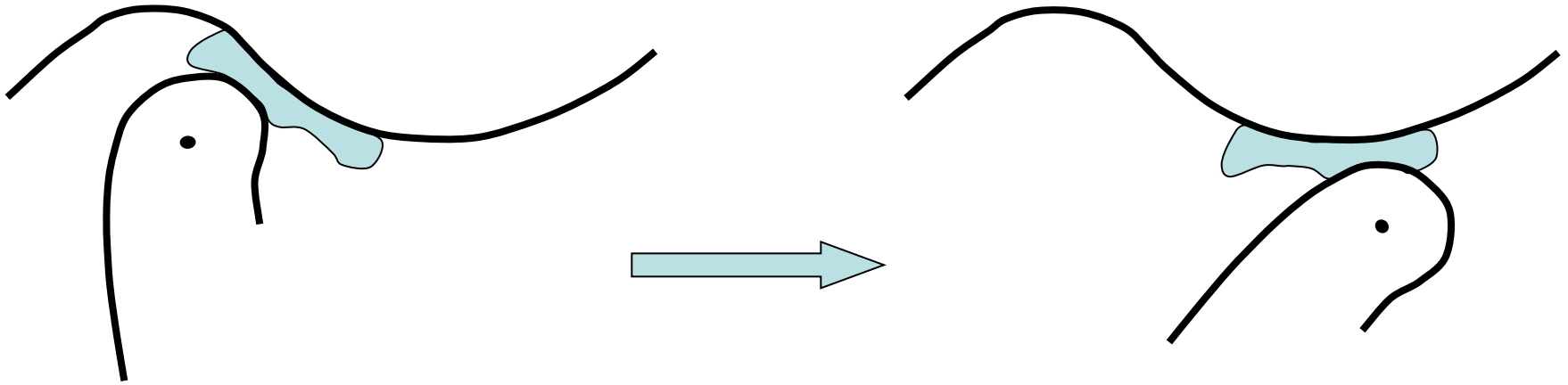
1. EFFECTS ON DISC PROBLEMS 関節円板の問題に与える影響

COMMON TIME COURSE OF DISC PROBLEMS 関節円板問題の一般的な経過

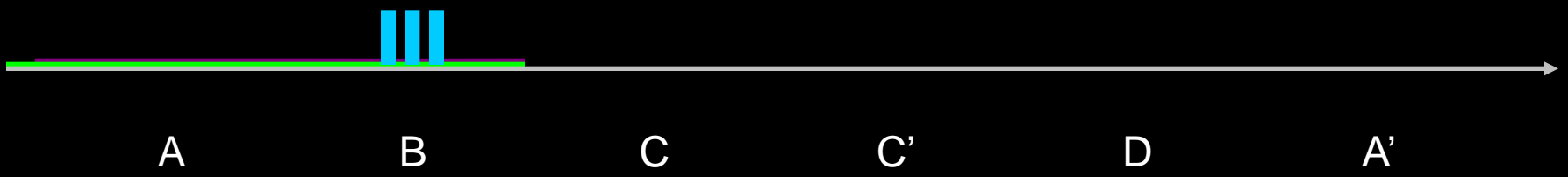
A. NORMAL 正常



B. CLICK クリック



- █ sound 雑音
- █ pain 疼痛
- █ trismus 開口障害



C. RECIPROCAL CLICK 相反性クリック

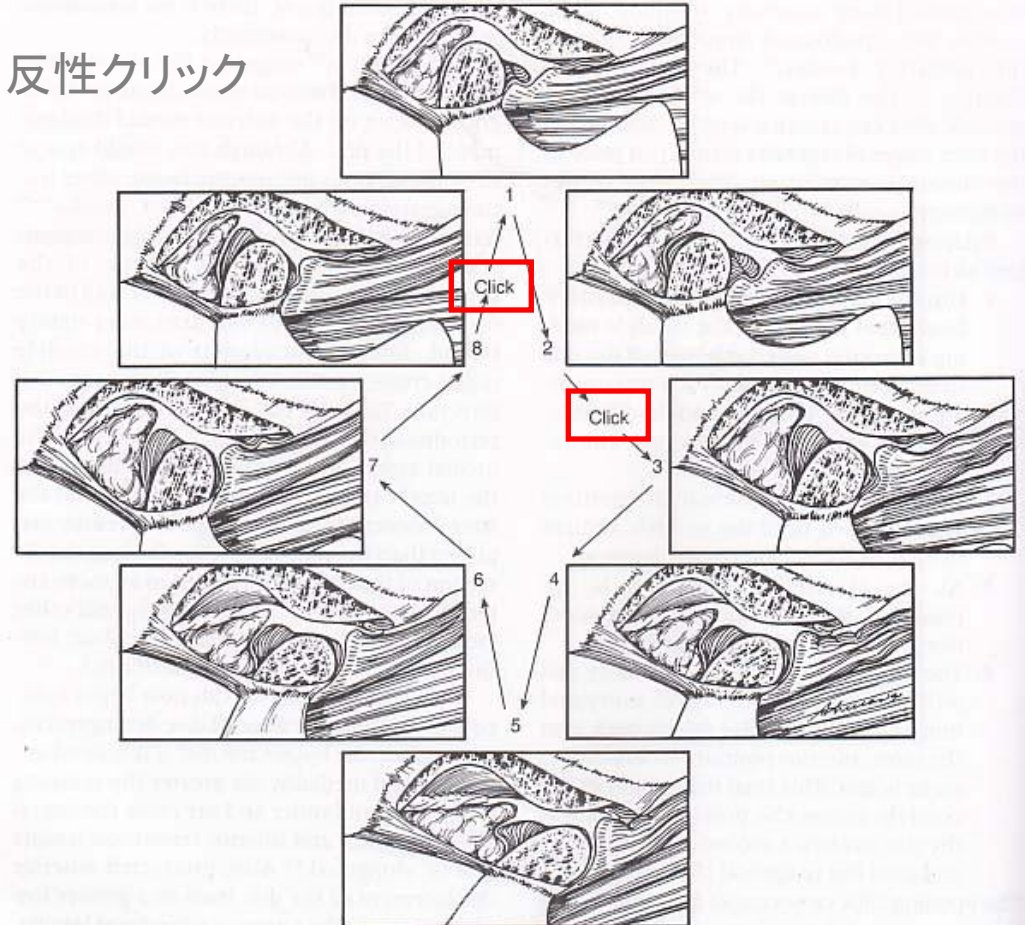
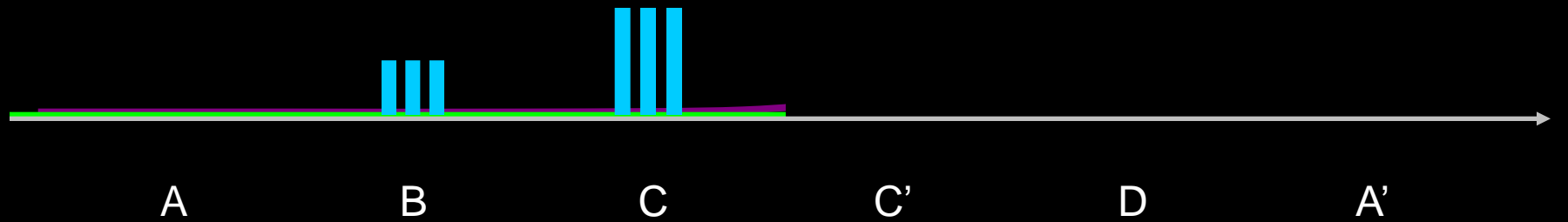


Fig. 8-8 Reciprocal click. Between positions 2 and 3 a click is felt as the condyle moves across the posterior border of the disc. Normal condyle-disc function occurs during the remaining opening and closing movement until the closed joint position is approached. Then a second click is heard as the condyle once again moves from the intermediate zone to the posterior border of the disc (between 8 and 1).

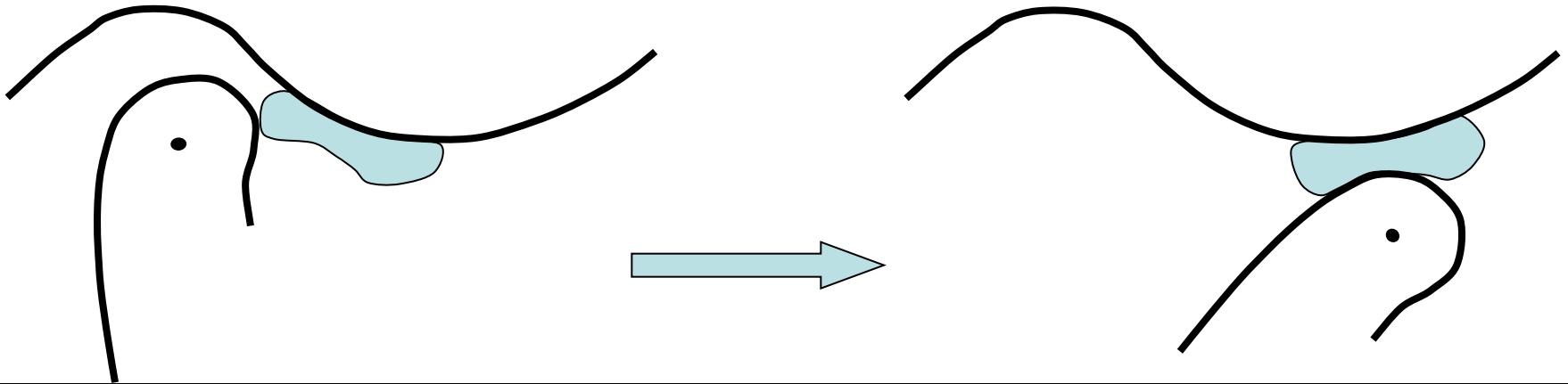
Management of Temporomandibular Disorders and Occlusion (Okeson 1998)



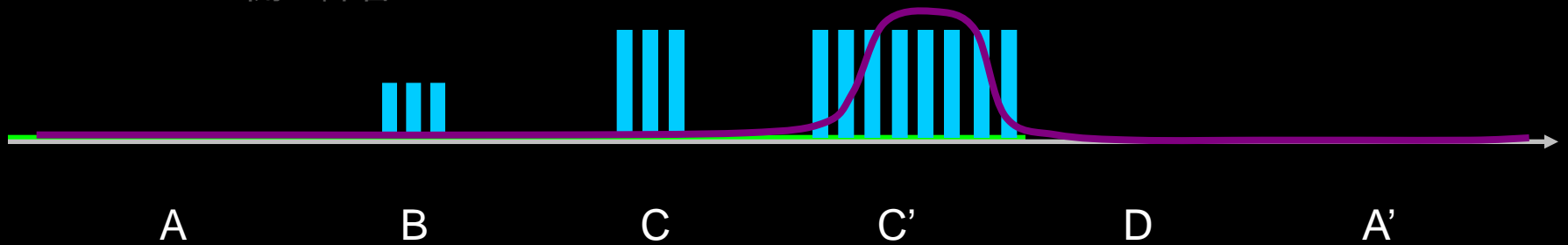
- sound 雑音
- pain 疼痛
- trismus 開口障害

C'. DISC DISPLACEMENT WITH REDUCTION

復位性關節円板前方転位

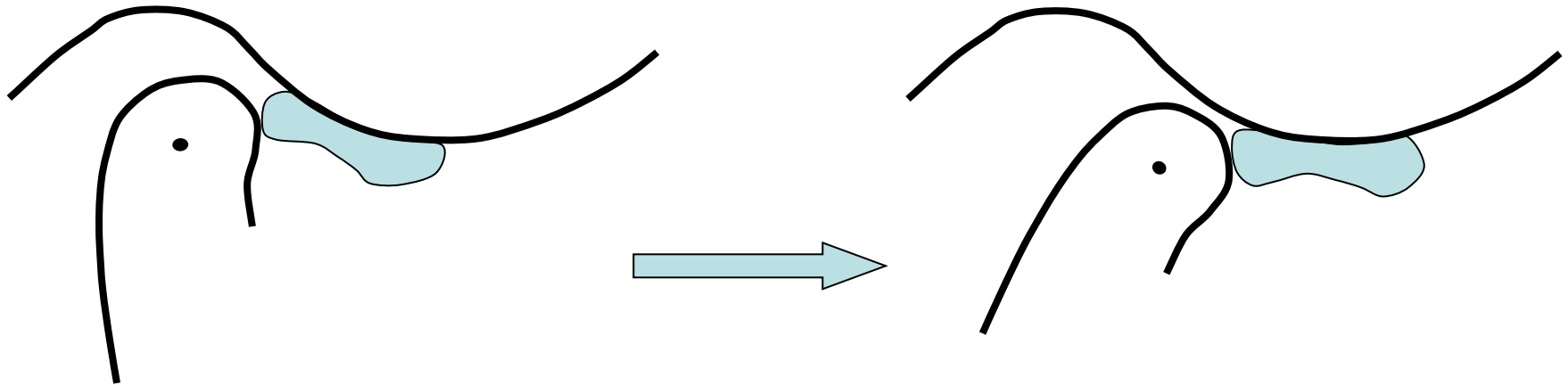


- █ sound 雑音
- █ pain 疼痛
- █ trismus 開口障害

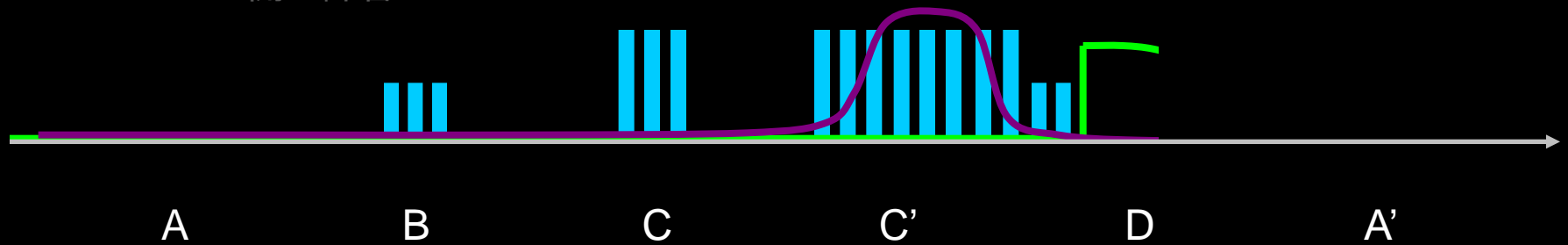


D. DISC DISPLACEMENT WITHOUT REDUCTION

非復位性關節円板前方転位

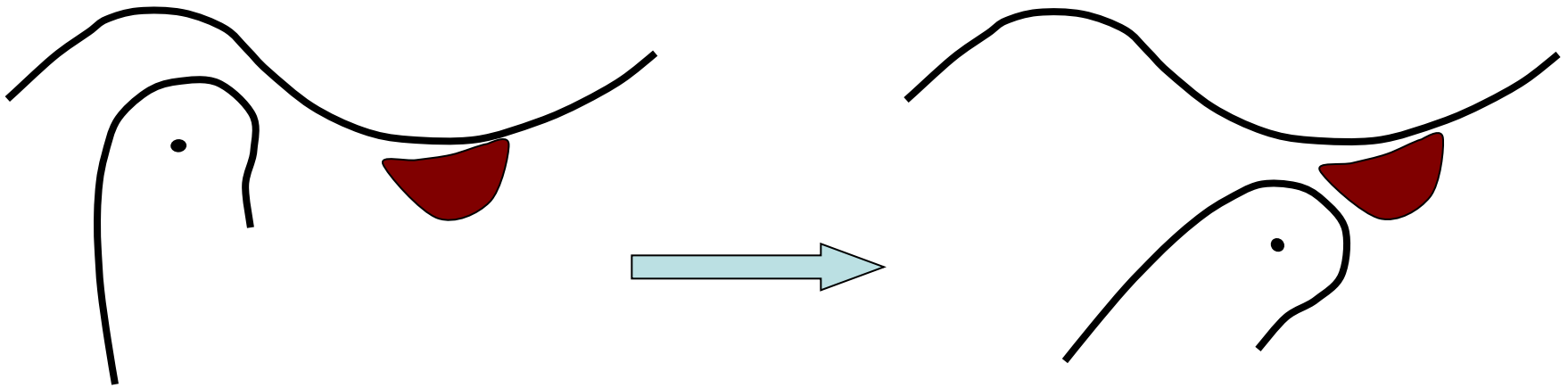


- █ sound 雑音
- pain 疼痛
- trismus 開口障害

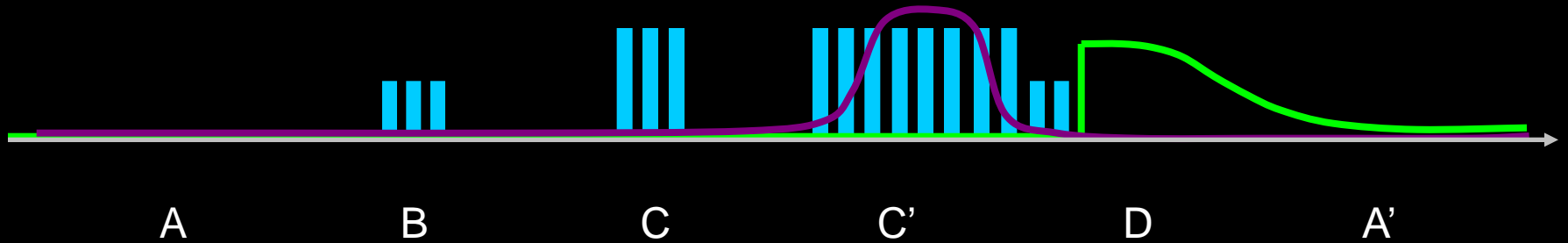


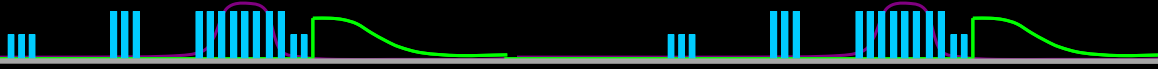
A'. NORMAL?

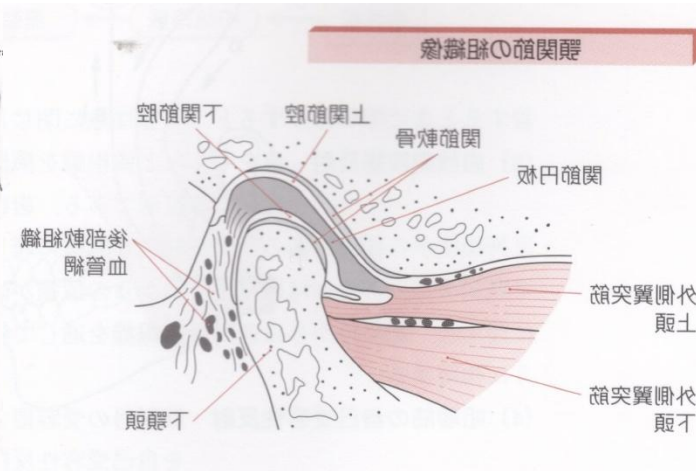
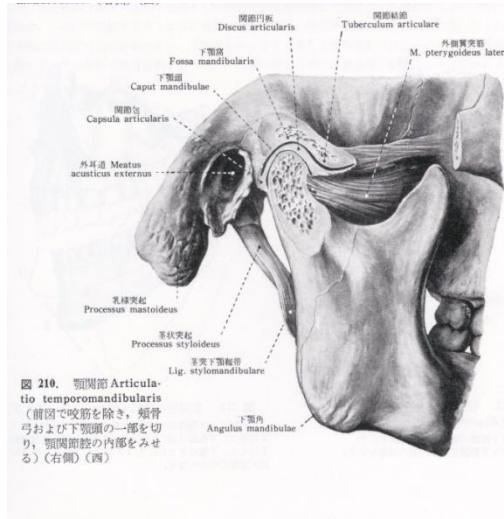
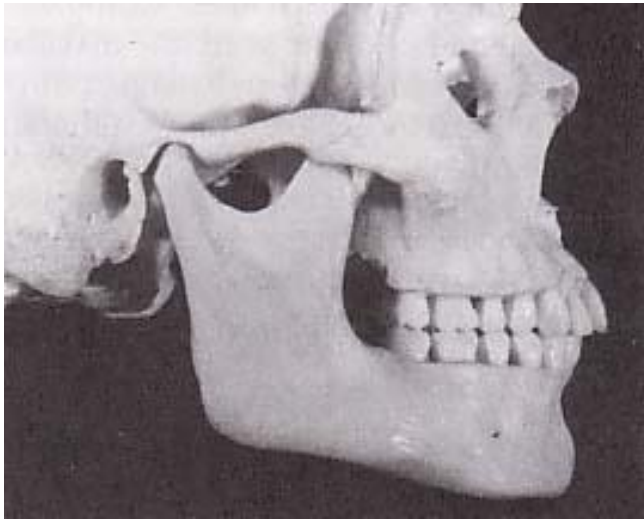
非復位性關節凹板前方轉位



- █ sound 雜音
- █ pain 疼痛
- █ trismus 開口障害

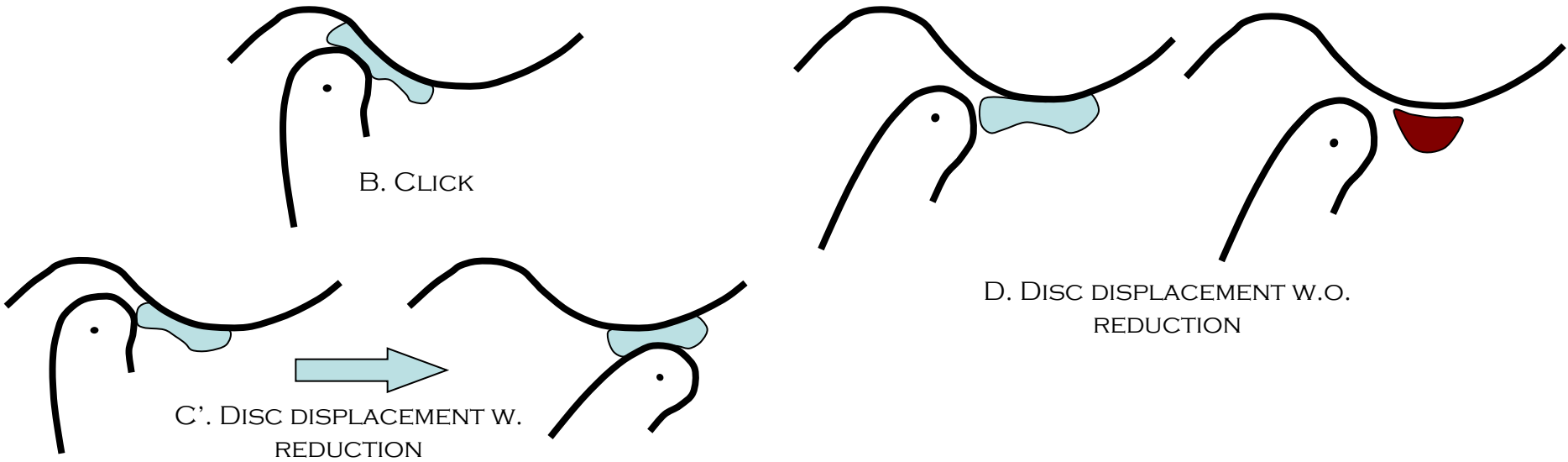






Management of Temporomandibular Disorders and Occlusion (Okeson 1998)

解剖学 第一巻 (森 ほか, 金原出版 1950) 補綴臨床に必要な顎口腔の基礎知識 (藍, 学建書院 2002)





CONTENTS 内容

THE EFFECT OF WEARING OCCLUSAL SPLINT ON スプリントが

1. DISC PROBLEMS 関節円板の問題に与える影響
2. **MUSCLE PROBLEMS** 咀嚼筋の問題に与える影響
3. CONDYLE PROBLEMS 下顎頭の問題に与える影響
4. BRUXISM ブラキシズムに与える影響

2. EFFECTS ON MUSCLE PROBLEMS

咀嚼筋の問題に与える影響

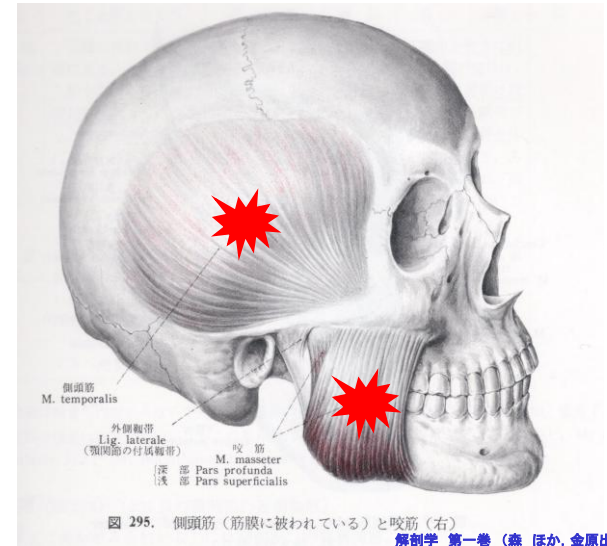
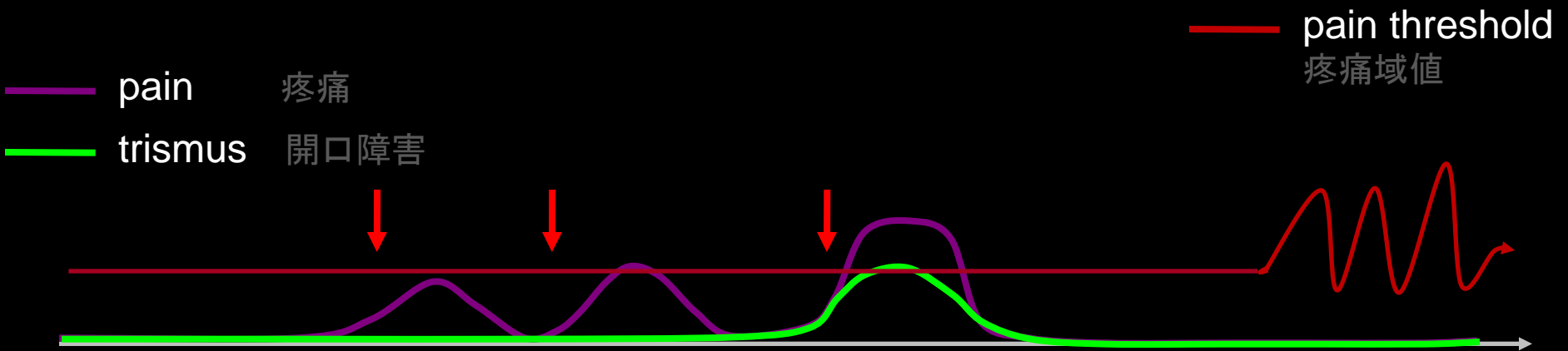


図 295. 側頭筋（筋膜に被われている）と咬筋（右）
解剖学 第一巻（森 ほか、金原出版 1950）





CONTENTS 内容

THE EFFECT OF WEARING OCCLUSAL SPLINT ON スプリントが

1. DISC PROBLEMS 関節円板の問題に与える影響
2. MUSCLE PROBLEMS 咀嚼筋の問題に与える影響
3. **CONDYLE PROBLEMS** 下顎頭の問題に与える影響
4. BRUXISM ブラキシズムに与える影響

3. EFFECTS ON CONDYLE PROBLEMS

下顎頭の問題に与える影響

治療前



かわった？

治療途中(一年後)






CONTENTS 内容

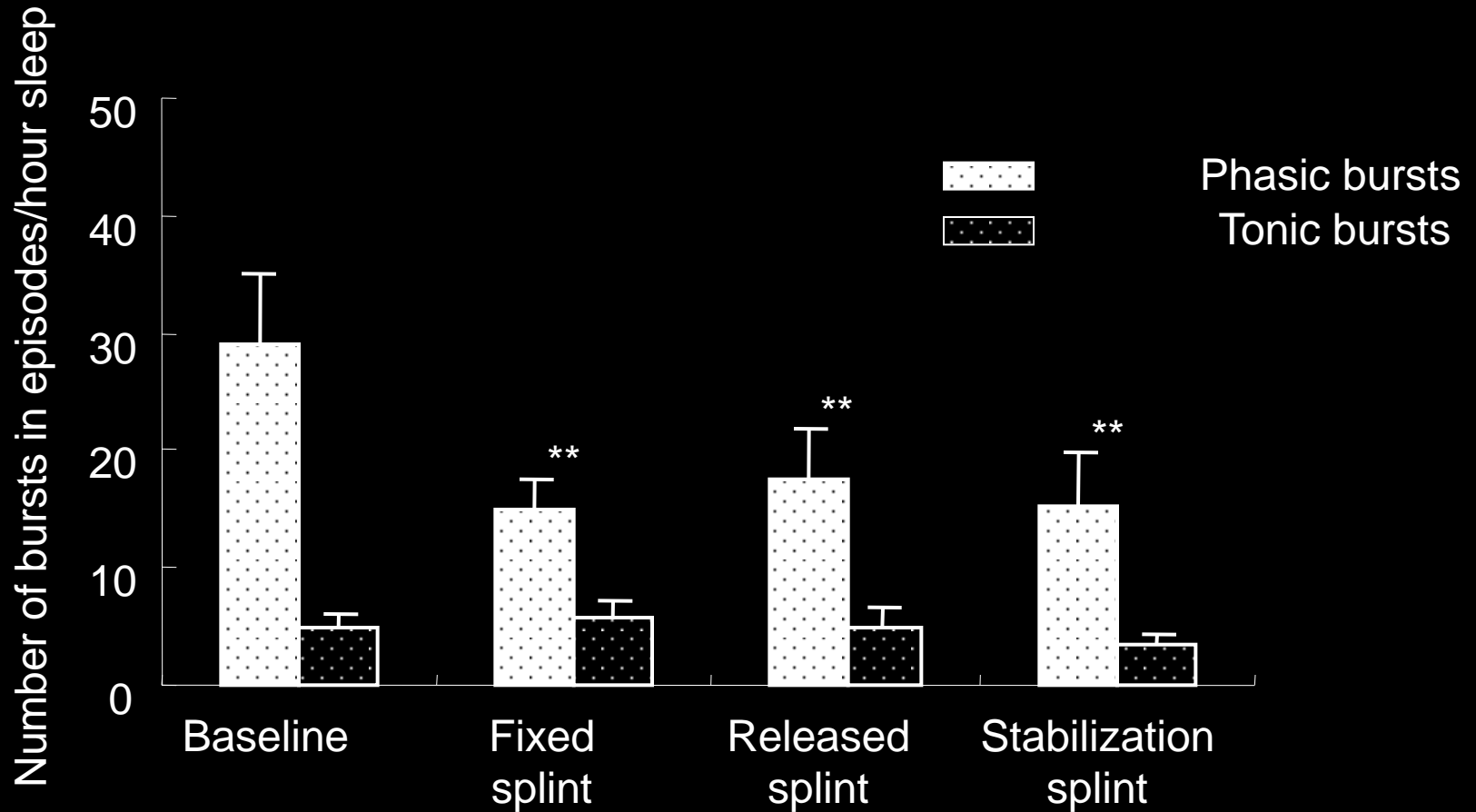
THE EFFECT OF WEARING OCCLUSAL SPLINT ON スプリントが

1. DISC PROBLEMS 関節円板の問題に与える影響
2. MUSCLE PROBLEMS 咀嚼筋の問題に与える影響
3. CONDYLE PROBLEMS 下顎頭の問題に与える影響
4. **BRUXISM** ブラキシズムに与える影響

4. EFFECTS ON BRUXISM

ブラキシズムに与える影響





**P<0.010

SUMMARIES

1. MILD EFFECT

マイルドな効果

2. OCCLUSAL RECONSTRUCTION

咬合再構成

3. ASSISTANCE

補助輪

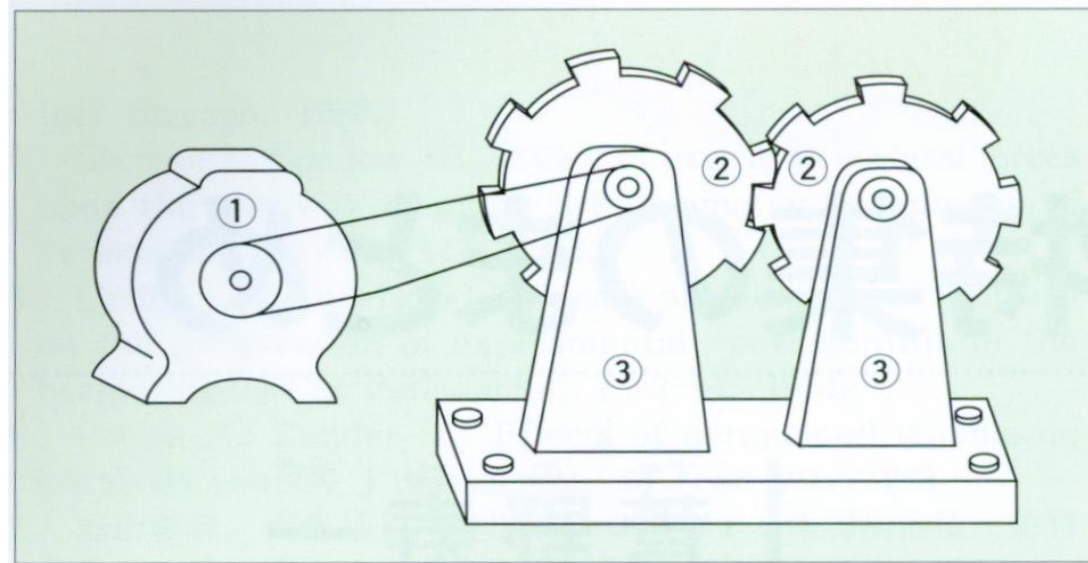
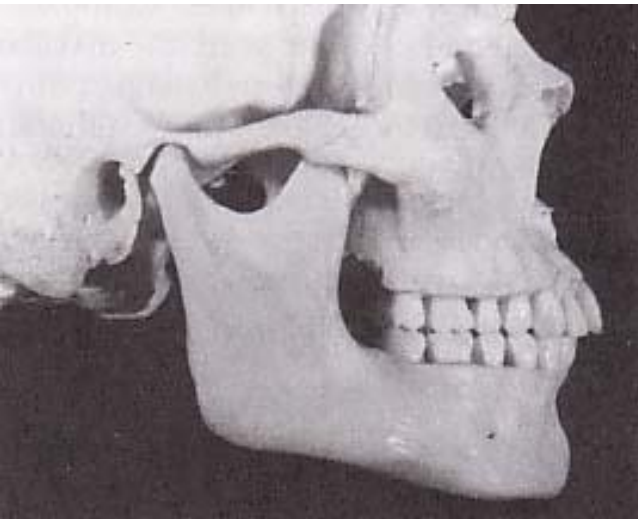


図 咬合性外傷の発生要因の模式図. ①は力の発生部 (筋力), ②は力の伝達部 (咬合面), ③は力の支持部 (歯周組織) で, いずれの異常も咬合性外傷の原因となる (文献¹⁾ より引用改変).

石川 1977